

■コメント

1. 手足口病

定点当たり4.96人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。

体調管理に注意するとともに、引き続き手洗いの励行や排泄物の適切な処理を心がけるなど、感染予防を徹底しましょう。

2. デング熱

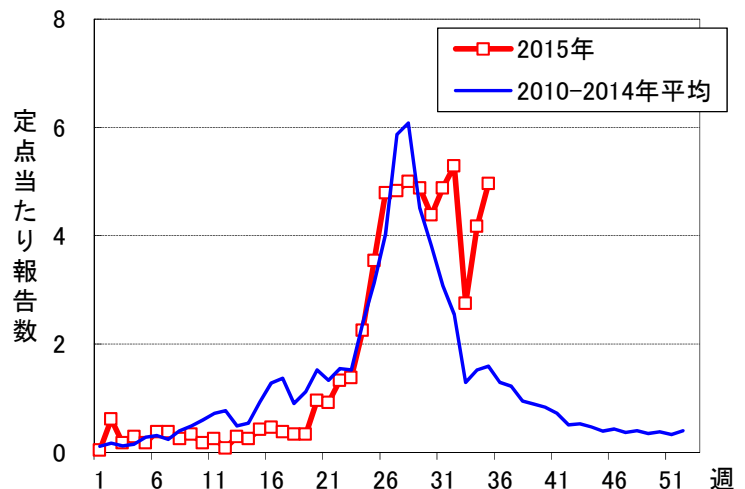
今年初めて1件(推定感染地:国外)の報告がありました。

デング熱は、蚊が媒介する感染症です。蚊媒介感染症が流行している国を訪れる際には、昆虫忌避剤の使用、屋外活動時は長袖・長ズボンを着用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう。

3. 日本紅斑熱

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。(次頁参照)

手足口病の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	34	1.48	0.36	
	咽頭結膜熱	8	0.35	0.51		眼科	RSウイルス感染症	13	0.57	0.68	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	1.26	0.56			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	96	4.17	3.11		眼科	流行性角結膜炎	14	1.75	1.00	
	水痘	5	0.22	0.57		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	114	4.96	1.59			無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
	伝染性紅斑	6	0.26	0.13			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.26	
	突発性発しん	12	0.52	0.43			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.08			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	35	1.52	0.67							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	97	男性(20歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、女性(80歳代)・1人、男性(90歳代)・1人、女性(90歳代)・1人
4	A型肝炎	1	7	男性(40歳代)
4	デング熱	1	1	男性(10歳代)・市外・推定感染地域: 国外
4	日本紅斑熱	1	2	女性(30歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	15	男性(60歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎)(ロタ ウイルス)
報告数	広島市	第31週	-	13	47	115	6	117	15	13	1	104	57	1	-	13	-	4	-	-
		第32週	1	18	44	95	10	127	14	11	1	45	41	-	4	-	3	-	-	-
		第33週	-	8	23	51	6	66	3	9	-	27	26	1	-	9	-	3	-	-
		第34週	-	11	24	74	3	100	12	8	1	36	54	4	-	16	-	6	-	-
		第35週	-	8	29	96	5	114	6	12	1	35	34	13	-	14	-	2	-	-
定点当 たり	広島市	第31週	-	0.54	1.96	4.79	0.25	4.88	0.63	0.54	0.04	4.33	2.38	0.04	-	1.63	-	-	0.57	-
		第32週	0.03	0.75	1.83	3.96	0.42	5.29	0.58	0.46	0.04	1.88	1.71	-	0.50	-	0.43	-	-	-
		第33週	-	0.33	0.96	2.13	0.25	2.75	0.13	0.38	-	1.13	1.08	0.04	-	1.13	-	0.29	0.43	-
		第34週	-	0.46	1.00	3.08	0.13	4.17	0.50	0.33	0.04	1.50	2.25	0.17	-	2.29	-	0.14	0.86	-
		第35週	-	0.35	1.26	4.17	0.22	4.96	0.26	0.52	0.04	1.52	1.48	0.57	-	1.75	-	0.29	-	-
	全国	第33週	0.05	0.36	1.03	2.47	0.22	5.90	0.38	0.44	0.01	1.70	0.44	0.30	0.01	0.64	0.03	0.07	0.50	0.01
		第34週	0.05	0.43	1.16	3.13	0.26	5.64	0.52	0.56	0.02	1.47	0.53	0.36	0.01	1.15	0.03	0.08	0.50	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(38.6)	0	女	2015/06/27	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA9型
手足口病	発熱(38.8)	0	不詳	2015/07/13	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
ヘルパンギーナ	発熱(39.4) 口内炎 熱性痙攣	0	女	2015/07/20	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA6型
その他の呼吸器疾患	発熱 上気道炎	2	女	2015/07/08	咽頭拭い液	エコーウイルス18型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.2) 発疹 上気道炎	0	男	2015/07/09	咽頭拭い液	エコーウイルス18型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1) 咽頭炎	0	男	2015/07/19	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスB4型
その他の発疹性疾患	発熱(38.0) 発疹 丘疹 紅斑 水疱	1	男	2015/07/18	皮膚病巣	コクサッキーウイルスA6型
その他の疾患	発熱(39.0) 黄疸	0	男	2015/07/15	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
その他の疾患	発熱(38.3)	0	男	2015/07/11	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
その他の疾患	発熱(38.1)	0	女	2015/07/08	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニに注意しましょう

ー日本紅斑熱／つつが虫病／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ー

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ類に吸着されることにより感染する感染症で、2～8日程度の潜伏期間を経て発症します。症状の主な特徴は発熱・発しんで、ダニの刺し口が見られることもあります。マダニの活動が盛んな春から秋(4月～11月頃)にかけて患者が発生しています。

また、つつが虫病やSFTSも、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、

- ・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぐ
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックする

などの対策をとることが重要です。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2015年第35週(8月24日～8月30日)